2013/2014 シーズン　2014 年 2 月 13 日

横浜市インフルエンザ流行情報　12 号

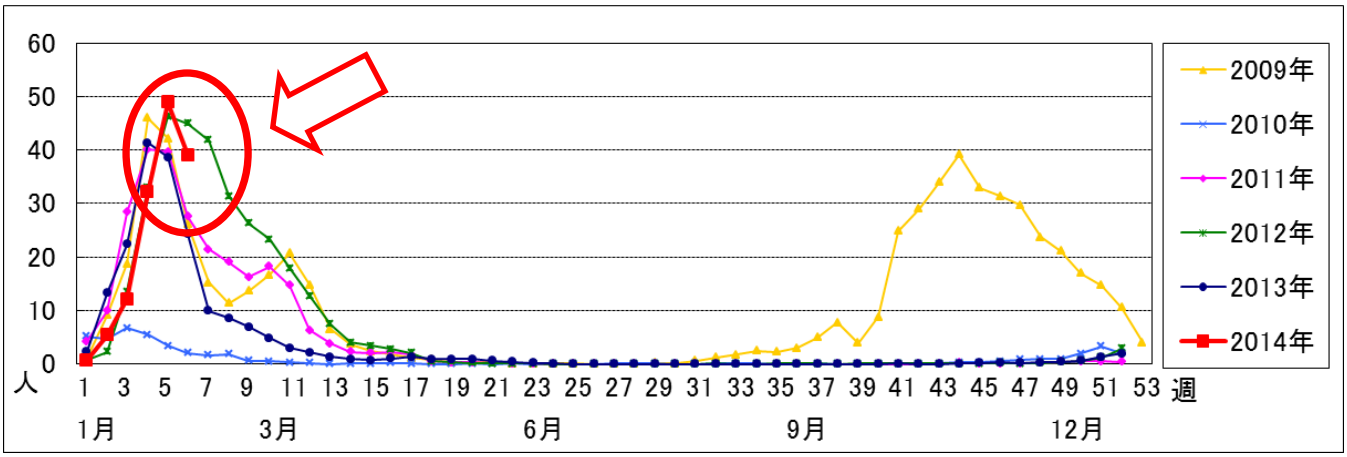
横浜市健康福祉局健康安全課　／　横浜市衛生研究所

《トピックス》

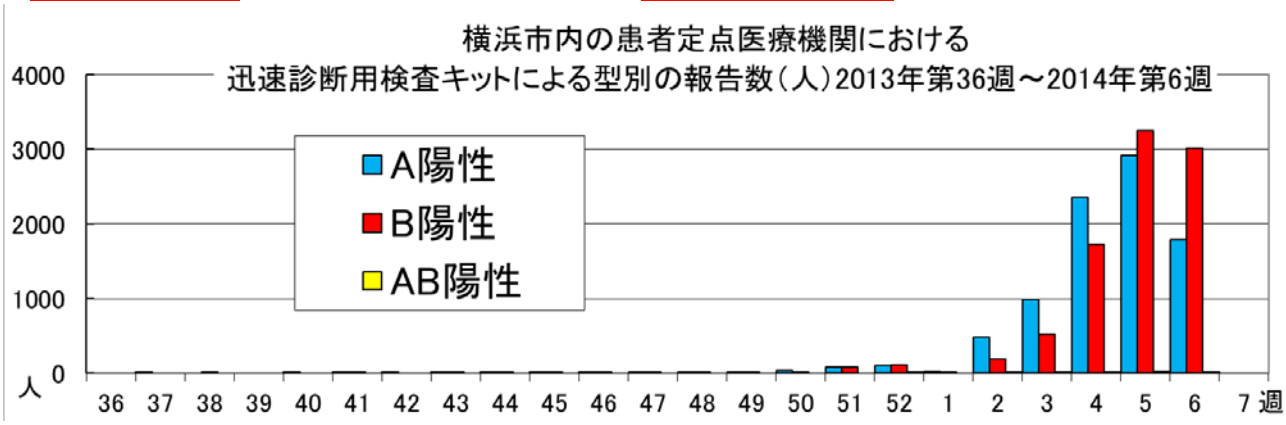
- 定点※1 あたりの報告数が、今年に入って初めて前週を下回りましたが、依然として流行の最盛期です。
- AH1pdm09 型による急激な経過をたどった脳症の事例が長野県で報告※2 されました。AH1pdm09 型による脳症は市内でも報告されており、注意が必要です。
- 感染予防や早期受診などの対策※3 が重要です。

※1 定点・・定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関（市内 152 か所）のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。
※2 ＜速報＞インフルエンザ A(H1N1)pdm09 による生来健康小児の急性インフルエンザ脳症死亡例の報告―長野県（国立感染症研究所）
※3 インフルエンザ予防チラシ（横浜市）

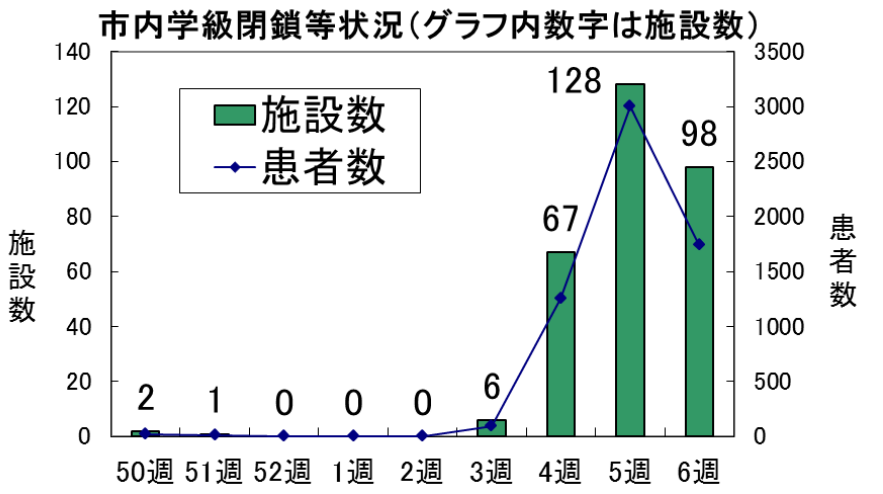
1　**市内流行状況：**市全体の定点あたりの患者報告数は、第 6 週（2 月 3 日～9 日）39.09 と、前週の 48.91 を下回りましたが、依然として流行の最盛期にあります。区別で最も報告数が多いのは神奈川区 61.88 で、次に緑区 57.14、都筑区 53.14 となっています。他区の状況については横浜市感染症発生動向調査報告週報をご参照ください。



2　**迅速キット結果：**第 6 週は A 型 37.2%、B 型 62.5%、A 型 B 型ともに陽性 0.3%と、B 型が A 型を上回っています。第 5 週から第 6 週にかけて A 型の減少が顕著です。

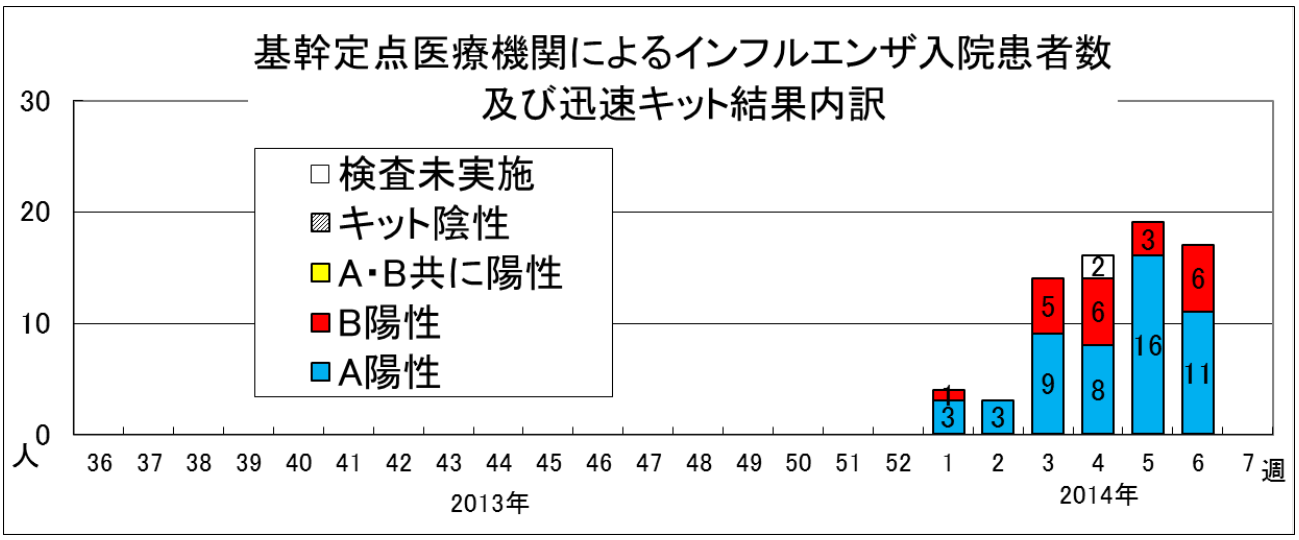


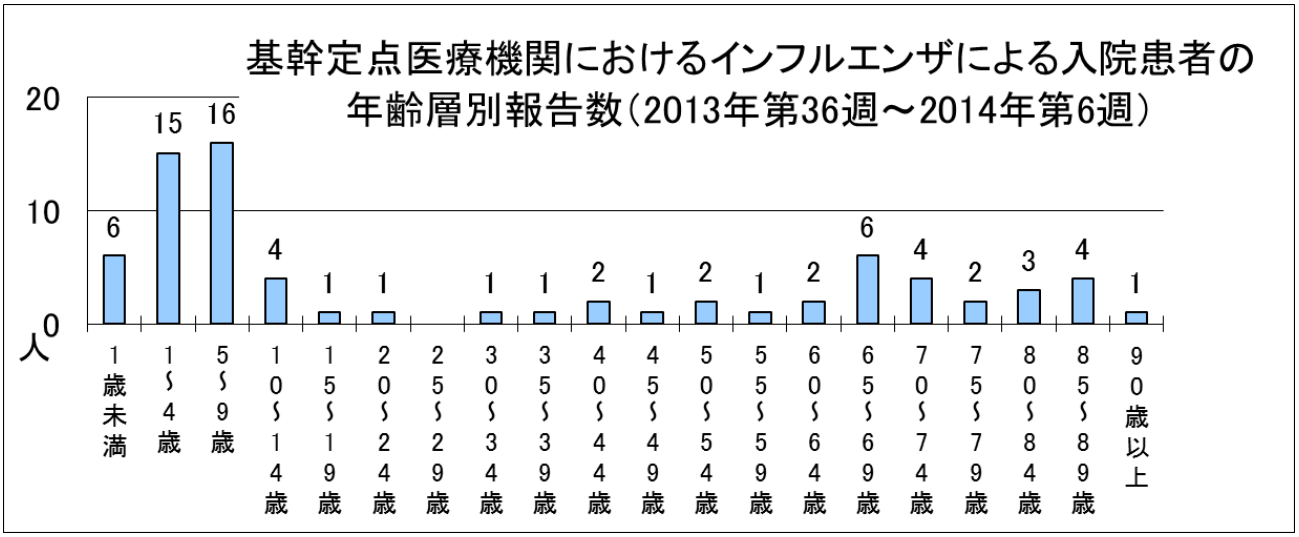
3　市内学級閉鎖等状況：
閉鎖施設数は第 5 週から第 6 週にかけて減少しました。第 6 週の施設種別では、小学校 77 件、中学校 10 件、幼稚園 8 件、高校 3 件でした。



4　入院サーベイランス：基幹定点医療機関※4 における、インフルエンザの入院患者数はほぼ横ばいで、迅速キットの内訳では A 型の方が多くなっています。年齢層別（累計）では、10 歳未満で全体の 5 割程を占めています。

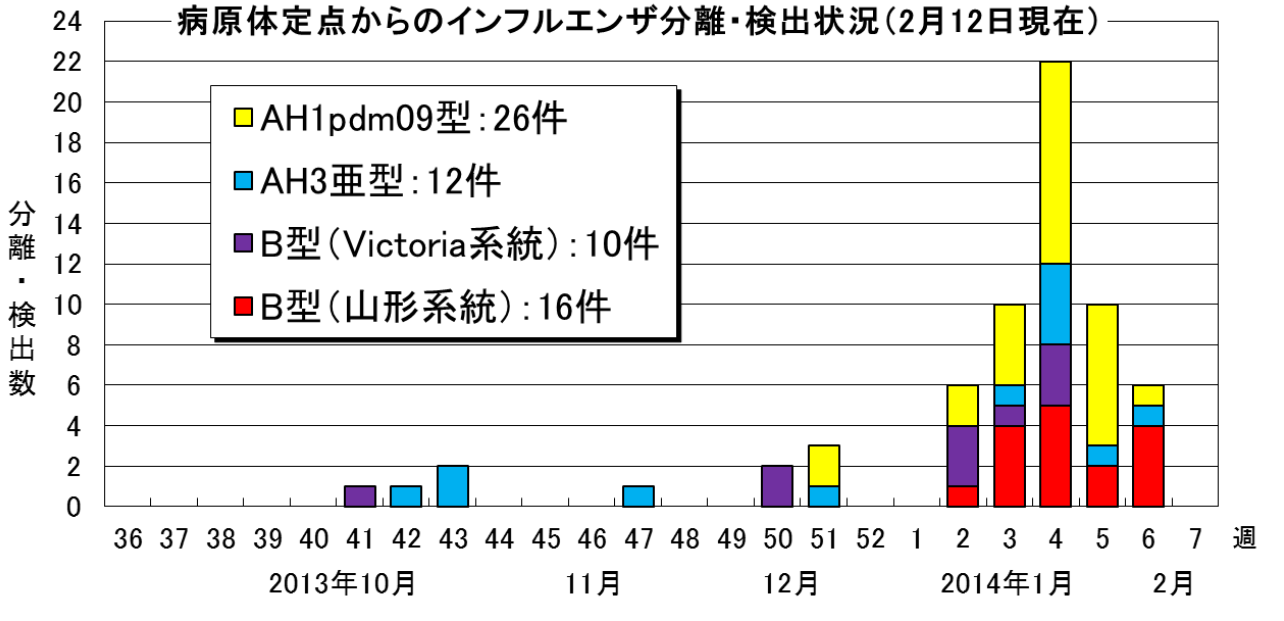
※4　基幹定点：患者を 300 人以上収容する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。





5 **インフルエンザ脳症**：第4週に幼児の報告が2件（AH1pdm09型およびAH3亜型）ありました。どちらも発症後早期に意識障害を認めており、罹患後の容態変化に注意が必要です。市内発生例は幸いにして軽快しましたが、長野県では生来健康な9歳児がインフルエンザ脳症を発症し、発症から2日目に死亡した事例が報告されています。

6 **市内病原体検出状況**：市内では病原体定点から今シーズン計64件インフルエンザウイルスが分離・検出されています。今年に入りAH1pdm09型が多く検出されていましたが、第6週ではB型（山形系統）が多く検出されています。



7 **分離株の抗原性解析と耐性検査**：市内で検出されたインフルエンザウイルスの、ワクチン株との抗原性解析（HI試験）では、AH3亜型6株、AH1pdm09型4株を国立感染症研究所で検査したところ、すべて2管差以内です。一般的に2管差（HI価4倍）以内でワクチン株と類似していると言われています。（注：抗原性解析は、実験室的にウイルス株とワクチン株の類似性を確認しているだけで、臨床的なワクチンの効果は疫学的に検証する必要があります。）薬剤感受性試験では、AH3亜型4株、AH1pdm09型5株を国立感染症研究所で検査したところ、すべて主な薬剤（オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビル）への感受性低下は認めていません。

衛生研究所でAH1pdm09型の47株を検査したところ、耐性ミックス株（275H/Y）（注：薬剤治療中または治療後の患者の検体からは、薬剤により耐性が誘導された株と通常の株がミックスされたもの（耐性ミックス株）が検出されることがあります。通常はそのウイルスが地域で流行することはありません。最近話題になっている耐性株とは異なります。）が3株見つかっていますが、耐性株（275Y）は見つかっていません。

◇ 臨時情報11号で報告した分から新たな検査結果の報告が国立感染症研究所から届かなかったため、今回は検査結果表の掲載は割愛します。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(754)9815